

「青森県立高等学校教育改革第2次実施計画（案）」についての意見募集結果について

県が実施しました「青森県立高等学校教育改革第2次実施計画（案）」の意見募集の結果は次のとおりです。

### 1 意見の募集期間

平成16年7月26日から平成16年9月13日まで

### 2 募集方法

県のホームページ（<http://www.pref.aomori.jp/>）に案を掲載したほか、県立学校課、行政資料センター、県合同庁舎の地域住民情報コーナーに備え付けました。

また、報道機関へ公表するとともに、必要に応じ、地元での説明会を開催しました。

意見提出は郵送、FAXまたは電子メールのいずれかの方法によることとし、提出言語は日本語としました。

意見提出にあたっては、提出者の住所・氏名（法人の場合は、その名称・事務所所在地等の連絡先）の明記を条件としました。

### 3 提出された意見

114人の方から延べ146件の意見をいただきました。その反映状況は、次のとおりです。

文章修正等	記述済み	実施段階検討	反映困難	その他	合計
2	34	0	98	12	146

「文章修正等」・・・計画本文の修正や記述の追加など意見を反映させたもの。

「記述済み」・・・すでに計画本文へ記述済みのもの。

「実施段階検討」・・・計画の実践段階で検討又は対応すべきもの。

「反映困難」・・・計画への反映が困難なもの。

「その他」・・・質問や感想、施策の体系外への意見等のため計画への反映を要しないもの。

お寄せいただいた意見の内容とそれに対する県教育委員会の考え方は、次のとおりです。

なお、類似意見は、意見の末尾に件数をかっこ書きし、まとめて1件として公表を行い、県教育委員会の考え方を回答していることをお断りします。

<提出された意見の内容と県の考え>

No.	意見の内容	意見に対する県教育委員会の考え方
<b>第2次実施計画全般について（賛成12件、反対8件、中立3件、計23件）</b>		
1	<p>高校は、教科や部活動の生徒の選択幅を広くするため、一定の規模が必要である。</p> <p style="text-align: right;">（4件）</p>	<p>「4 中学校卒業者数の減少に対応した学校の適正規模・配置等」の「(2) 整備方針」に記述したとおり、将来的に望ましい学校規模とされる1学年4～8学級を目指すこととしています。</p> <p>【記述済み】</p>
2	<p>少子化による定員割れの状況を考えると、募集停止・校舎制は妥当である。</p> <p style="text-align: right;">（3件）</p>	<p>「4 中学校卒業者数の減少に対応した学校の適正規模・配置等」の「(3) 適正な学校の規模・配置計画」に記述したとおり、一部の学校について、募集停止や校舎制を実施することとしています。</p>
3	<p>現実を直視し、感情抜きに少子化時代の高校の在り方を議論すべきである。</p> <p style="text-align: right;">（2件）</p>	
4	<p>他県に比べ、本県の計画は校舎制など地域の状況に配慮している。</p> <p>【記述済み】</p>	
5	<p>生徒減少の中で、市浦、小泊以外の定時制も閉校を検討すべきである。</p>	<p>平成21年度以降も中卒者が減少することから、今回の計画で実施を予定していない統廃合については、全日制も含め、次の計画で検討することとなります。</p> <p>【反映困難】</p>
6	<p>募集停止及び校舎制に基本的に賛成だが、説明責任を果たすべきである。</p>	<p>計画案については、公表前に、関係する学校及び市町村に対し説明したところです。</p> <p>また、7月21日に公表した後、7月26日から9月13日まで50日間、パブリックコメントを実施しました。</p> <p>さらに、8月10日の川内町を皮切りに、計7か所で説明会を開催し、詳細な説明を行い、理解が得られるよう努めてきたところです。</p> <p>【その他】</p>
7	<p>郡部の小規模校の存続について地域と協議を深めるべきである。</p> <p style="text-align: right;">（2件）</p>	
8	<p>市町村合併の動向を見据え、柔軟に対応すべきである。</p>	<p>今回の計画案は、策定時点における行政区域を基に方針を策定したのですが、中学校卒業者数については、第2次実施計画後の平</p>

		<p>成 2 1 年度以降も減少し続け、昨年度生まれた子が中学校を卒業する平成 3 0 年度には、約 11,700 人となり、さらに約 3,100 人減少することが見込まれています。</p> <p>このため、新しい計画では、相当の規模の統廃合が必要になると考えており、市町村合併の結果も視野に入れながら、検討することとなります。</p> <p>【その他】</p>
9	財政難のための統廃合計画には反対である。 (7 件)	<p>今回の計画案は、少子化という大きな時代の流れの中で、本県高校教育の水準の維持・向上を図るため、全県的視点に立ち、様々な角度から検討し、策定したものです。</p> <p>具体的な計画については、教育の機会均等や全県的バランスも考慮し、策定しています。</p> <p>【その他】</p>
1 0	教育の機会均等を奪う、この計画案には反対である。	<p>【その他】</p>
<b>校舎制について（反対 2 件）</b>		
1 1	教育条件の切り下げであり、将来の閉校につながる校舎化には反対である。 (2 件)	<p>第 2 次実施計画案において、1 学級募集とする学校については、全学年が 1 学級規模となった段階で、校舎制に切り替えることとしています。</p> <p>校舎制については、本校舎から教員の派遣を受けたり、本校舎と合同でスポーツ大会や文化祭などの学校行事を開催するなどの取組みを行い、教育活動の充実を図ることとしています。</p> <p>各校における実際の取組みについては、本校舎との間で、実施の可能性や教育効果等について協議・検討を行い、決定することとなります。</p> <p>校舎制は、閉校を前提としたものではなく、平成 2 1 年度以降は、地元からの入学状況等を見極めながら、教育の機会均等や全県的バランスも考慮しつつ、検討することとなります。</p> <p>【反映困難】</p>
<b>併設型中高一貫教育について（反対 1 件）</b>		
1 2	大学進学率向上を目的とする県立中学校設置には反対である。	<p>併設型中高一貫教育には、</p> <p>① 高校入試の影響を受けずに、6 年間の計</p>

		<p>画的・継続的な教育指導を展開することができる。</p> <p>② 6年間にわたり生徒を把握することができる。個性の伸長や優れた才能を発見できる。</p> <p>③ 幅広い異年齢集団による共通の活動を通し、社会性や豊かな人間性を育成できる。などのメリットがあります。</p> <p>併設型中高一貫教育は、このようなメリットを生かして、望ましい人格形成を目指すものであり、学力偏重の教育を行うものではありません。</p> <p>【反映困難】</p>
<b>定時制教育について（3部制反対1件、学科統合反対1件、計2件）</b>		
1 3	夜や深夜の就業を助長する定時制3部制には反対である。	<p>定時制高校については、社会の変化に伴い、生徒の多様化や就業形態の変化などにより、その役割が大きく変化しています。</p> <p>このことから、生徒の多様なニーズに応えられるよう、定時制独立校に導入するものです。</p> <p>【反映困難】</p>
1 4	働きながら学ぶ生徒の選択肢を狭める定時制工業高校の学科統合には反対である。	<p>現在、定時制工業高校には、2～3学科設置されていますが、入学者数は合わせても40人以内であることから、1学科1学級に統合するものです。</p> <p>統合後の学科については、工業教育の総合的な内容を盛り込むことを考えています。</p> <p>【反映困難】</p>
<b>今別高校について（校舎制賛成21件、反対10件、その他1件、計32件）</b>		
1 5	今別高校の校舎化はやむを得ない。 (21件)	<p>今別高校については、「4中学校卒業生数の減少に対応した学校の適正規模・配置等」の「(3) 適正な学校の規模・配置計画」の中で、平成17年度から1学級募集とし、平成19年度に校舎制に切り替えることとしています。</p> <p>【記述済み】</p>
1 6	1学級募集でも校名を「今別高校」としてほしい。	<p>法律により、本校は、収容定員（全学年）が240人以上と規定されており、学級規模にすると、1学年2学級以上となります。</p> <p>1学年1学級規模の学校については、制度</p>

		<p>上は分校となります。</p> <p>なお、通称として用いることについては差し支えないものと考えます。</p> <p><b>【反映困難】</b></p>
17	<p>今別高校の校舎化には反対である。</p> <p>校舎、分校になると肩身の狭い思いをする生徒もいる。</p> <p>校舎になれば、地域の教育発展に果たしてきた役割が減少する恐れがある。</p> <p>校舎制は閉校を前提としていると思う。</p> <p>(10件)</p>	<p>今回の教育改革第2次実施計画案は、少子化という大きな時代の流れの中で、本県高校教育の水準の維持・向上を図るため、全県の視点に立ち、様々な角度から検討し、策定したものです。</p> <p>今回の計画期間である平成17年度からの4年間に、東青地区の中学校卒業生数は、約400人、学級数にして約10学級分減少する見込みです。</p> <p>今別高校は、志願倍率が低く、平成14年度に学級定員を40人から35人に引き下げた後も、定員割れしており、募集人員の7割程度しか入学していません。</p> <p>また、平成17年度以降の東津軽郡の周辺町村を含めた地元からの入学者数は、40人程度で推移することが見込まれています。</p> <p>このような状況から、今別高校について、地元の中学校生徒の受け皿としては、1学級40人規模で対応可能と判断し、平成17年度から1学級募集とし、平成19年度から青森北高校今別校舎に切り替えることを計画したものです。</p> <p>これまでそれぞれの学校が培ってきたスポーツや文化活動などの伝統や、地域の教育発展に果たしてきた役割については、校舎制に移行した後も引き継がれていくものと考えています。たとえば、フェンシングなどの部活動は、今別校舎として、大会に出場することとなります。</p> <p>校舎制は、閉校を前提としたものではなく、平成21年度以降は、地元からの入学状況等を見極めながら、教育の機会均等や全県のバランスも考慮しつつ、検討することとなります。</p> <p><b>【反映困難】</b></p>

木造高校稲垣分校について（募集停止反対 1 件）	
1 8	<p>定員を満たしている木造高校稲垣分校の募集停止には反対である。</p> <p>今回の計画期間である平成 1 7 年度からの 4 年間に、西北五地区の中学校卒業生数は、約 3 1 0 人、学級数にして約 8 学級分減少する見込みであり、減少率は 15.9 %で、6 地区の中で最も高い数字となっています。</p> <p>稲垣分校は、平成 1 4 年度に学級定員を、4 0 人から 3 0 人に引き下げたことにより、定員割れはしていませんが、中学生の進路希望が反映される第 1 次進路志望状況調査において、過去 5 年間の平均倍率が 0.76 倍と、1 倍を割っています。</p> <p>また、入学者の約 5 割を木造町の中学校卒業生が占め、地元の中学校卒業生は、約 3 割となっており、一方、地元の中学校卒業生の約 8 割が五所川原市内の高校等に入学しています。</p> <p>さらに、1 7 年度以降の地元からの入学者数は、1 0 人以内で推移することが見込まれています。</p> <p>これらのこと及び、稲垣村の地理的条件も勘案の上、さらに少子化が進む中、現状を維持することは困難と判断し、平成 2 0 年度に募集停止することを計画したものです。</p> <p>【反映困難】</p>
五所川原東高校について（募集停止賛成 5 件、反対 7 2 件、計 7 7 件）	
1 9	<p>西北五地区の生徒数を考えると、五所川原東高校の存続は考えにくい。（2 件）</p> <p>五所川原東高校については、「4 中学校卒業生数の減少に対応した学校の適正規模・配置等」の「(3) 適正な学校の規模・配置計画」の中で、平成 2 0 年度に募集停止することとしています。</p> <p>【記述済み】</p>
2 0	<p>不登校生徒については、どこの学校でも受け入れるべきである。（2 件）</p> <p>不登校生徒の受入れについては、「2 個性や創造性の伸長を図る教育内容・方法の改善」の「(2) 今後の取組み」の「イ家庭・地域社会と高等学校の連携」の「②家庭・地域・関係機関との連携」の中に、すべての学校で取り組むことが重要である旨、記述しました。</p>

		<b>【文章修正（追加）】</b>
2 1	統廃合が避けられないのであれば、志望者の多い学校を残すべきである。	「4 中学校卒業者数の減少に対応した学校の適正規模・配置等」の「(3) 適正な学校の規模・配置計画」の中で示すとおり、少子化の中、志望者が多い市部の学校等の学級減を可能な限り避ける観点から、今回の計画を策定しています。
		<b>【記述済み】</b>
2 2	不登校生徒を積極的に受け入れている五所川原東高校を閉校するのは、反対である。 (2 9 件)	不登校生徒の受入れと入学後の指導については、数に違いはあるものの、これまでも、すべての県立高校において行われており、多くの生徒に改善が図られています。 また、地域に密着したボランティア活動等にかかわる体験的な学習については、学習指導要領において、すべての学校が取り組むことになっています。
2 3	地域との交流やボランティア活動が盛んな五所川原東高校を閉校するのは、反対である。 (2 2 件)	さらに、習熟度別学習等個に応じた指導についても多くの学校で取り組んでいます。
2 4	一人一人を大事にした教育を実施している五所川原東高校を閉校するのは、反対である。 (1 6 件)	五所川原東高校は、志願倍率が低く、募集人員の6割程度しか入学しておらず、さらに、五所川原市内には、高校が県立4校、私立2校の計6校あり、近隣に、鶴田高校、板柳高校及び浪岡高校もあります。 このような状況から、さらに少子化が進む中、現状を維持することは困難と判断し、段階を踏みながら、募集停止することを計画したものです。
		<b>【反映困難】</b>
2 5	養護施設の子どもたちに学ぶ機会を与えてくれる五所川原東高校を閉校するのは、反対である。 (2 件)	養護施設の子どもたちは、五所川原東高校だけでなく、本人の進路希望により、様々な高校に入学しています。
		<b>【反映困難】</b>
2 6	旧市立七和高校以来の歴史がある五所川原東高校を閉校するのは、反対である。	五所川原東高校だけでなく、すべての高校に歴史と伝統があります。 五所川原東高校の募集停止については、少子化という大きな時代の流れの中、段階を踏みながら行うものです。 No. 4～6を参照願います。

27	<p>分校化・統廃合基準に合致していない五所川原東高校を閉校するのは、反対である。</p>	<p><b>【反映困難】</b></p> <p>第1次実施計画の「分校化・統廃合基準」は、既存の学校を可能な限り存続させたいとの考えから示した基準です。</p> <p>このため、第1次実施計画期間中においては、この基準に該当する学校が生じないよう、中学校卒業生数の減少への対応については、市部を中心とした大規模校の学級減を行い、小規模校については学級定員の引下げを行ったところです。</p> <p>しかし、市部を中心とした大規模校の学級減は、ほぼ限界に達しており、今後さらに中学校卒業生数が減少する中、これまでと同様の考え方によりさらに学級減を進めた場合、生徒やその保護者の進路希望とますますかけ離れる状況となります。</p> <p>このため、第2次実施計画においては、この基準によることなく、適正な学校の規模・配置計画を策定したものです。</p> <p><b>【反映困難】</b></p>
28	<p>五所川原東高校を閉校するのではなく、比較的存在価値が低い学校を統廃合すべきである。</p>	<p>すべての学校が、ボランティア活動を行っており、また、郷土芸能の継承、郷土料理や伝統工芸の体験など、特色ある教育に取り組んでいます。</p> <p>今回の計画は、教育の機会均等や全県的バランスも考慮しつつ、以下の方針により策定したものです。</p> <p>① 現在ある分校は、平成20年度までに募集停止とする。</p> <p>② 市部の学校については、1学年4～8学級を維持することとし、3学級以下の学校については、平成20年度までに募集停止とする。</p> <p>③ 町村部の1学年3学級以下の学校については、地元生徒の志願・入学状況を踏まえ、学級減等を行い、1学級募集とする学校については、全学年が1学級規模となった段階で校舎制に切り替える。</p> <p><b>【反映困難】</b></p>



野辺地高校横浜分校について（募集停止反対 3 件）	
29	<p>不登校など何らかの問題を抱えている子どもたちの受け皿になっている野辺地高校横浜分校の募集停止には反対である。</p> <p style="text-align: right;">（3 件）</p>
<p>不登校やいじめなど何らかの事情を抱えている生徒については、すべての県立高校が受け入れており、その改善に努めています。</p> <p>今回の計画期間である平成17年度からの4年間に、上十三地区の中学校卒業生数が約180人、学級数にして約5学級分減少する見込みであり、特に来年度、高校へ入学する生徒の減少が著しく、約130人減少します。</p> <p>横浜分校は、志願倍率が低いこともあり、平成14年度に学級定員を40人から30人に引き下げた後も、定員割れしており、7割程度しか入学していません。</p> <p>また、入学者の6割以上をむつ市内の中学校卒業生が占め、地元の中学校卒業生は約3割となっており、一方、地元の中学校卒業生の8割以上がむつ市内の高校等に入学しています。</p> <p>さらに、17年度以降の地元からの入学者数は、10人以内で推移することが見込まれています。</p> <p>このような状況から、横浜分校について、さらに少子化が進む中、現状を維持することは困難と判断し、平成17年度に募集停止することを計画したものです。</p> <p style="text-align: right;">【反映困難】</p>	
川内高校について（校舎制反対 3 件）	
30	<p>生徒にとってほとんどの部分でマイナスであり、将来の廃校につながる川内高校の校舎化には反対である。</p> <p style="text-align: right;">（3 件）</p>
<p>校舎制については、本校舎から教員の派遣を受けたり、本校舎と合同でスポーツ大会や文化祭などの学校行事を開催するなどの取り組みを行い、教育活動の充実を図ることとしています。</p> <p>また、校舎制は、閉校を前提としたものではなく、平成21年度以降は、地元からの入学状況等を見極めながら、教育の機会均等や全県的バランスも考慮しつつ、検討することとなります。</p> <p>今回の計画期間である平成17年度からの4年間に、下北むつ地区の中学校卒業生数が約90人、学級数にして約3学級分減少する</p>	

		<p>見込みです。</p> <p>川内高校については、中学生の進路希望が反映される第1次志望調査において、過去5年間の平均が0.71倍であり、一般選抜の志願倍率も0.95倍と1倍を割っています。</p> <p>また、入学者の約3割をむつ市の中学校卒業者が占めており、脇野沢村を含めた地元から川内高校への入学者数は、平成17年度以降40人以内で推移することが見込まれています。</p> <p>このような状況から、川内高校について、地元の中学校生徒の受け皿としては、1学級40人規模で対応可能と判断し、平成18年度から1学級募集とし20年度から大湊高校川内校舎に切り替えることを計画したものです。</p> <p>【反映困難】</p>
<b>大畑高校について（校舎制反対1件）</b>		
3 1	<p>教育の質の低下が心配され、将来の閉校につながる大畑高校の校舎化には反対である。</p>	<p>校舎制については、本校舎から教員の派遣を受けたり、本校舎と合同でスポーツ大会や文化祭などの学校行事を開催するなどの取り組みを行い、教育活動の充実を図ることとしています。</p> <p>また、校舎制は、閉校を前提としたものではなく、平成21年度以降は、地元からの入学状況等を見極めながら、教育の機会均等や全県的バランスも考慮しつつ、検討することとなります。</p> <p>大畑高校については、中学生の進路希望が反映される第1次志望調査において、過去5年間の平均が0.72倍であり、一般選抜の志願倍率も0.77倍と1倍を割っています。</p> <p>また、入学者の約3割をむつ市内の中学校卒業者が占めており、地元から大畑高校への入学者数は、平成17年度以降40人以内で推移することが見込まれています。</p> <p>このような状況から、大畑高校について、地元の中学校生徒の受け皿としては、1学級40人規模で対応可能と判断し、平成18年度から1学級募集とし20年度から田名部高校大畑校舎に切り替えることを計画したもの</p>

		です。
		【反映困難】
<b>南郷高校について（校舎制反対 1 件）</b>		
3 2	南郷高校は、定員をほぼ満たしている。第 1 次志望調査でなく、最終倍率を基に、校舎化する理由を説明すべきである。	<p>今回の計画期間である平成 1 7 年度からの 4 年間に、三八地区の中学校卒業生数は、約 2 6 0 人、学級数にして約 7 学級分減少の見込みです。</p> <p>南郷高校については、平成 1 5 年度に学級定員を 4 0 人から 3 5 人に引き下げても、定員割れが生じたことから、平成 1 6 年度、3 学級募集から 2 学級募集としたところです。</p> <p>過去 5 年間の最終志願倍率の平均は 1.04 倍と 1 倍を超えているものの、入学者の約 6 割を八戸市の中学校卒業生が占めており、一方、地元の中学校卒業生の約半数が八戸市の高校に入学しています。</p> <p>また、平成 1 7 年度以降の地元からの入学者数は、2 0 人程度と見込まれています。</p> <p>このような状況から、南郷高校について、地元中学校生徒の受け皿としては、1 学級規模で対応可能と判断し、平成 2 0 年度に 1 学級募集とし、2 2 年度に八戸北高校南郷校舎に切り替えることを計画したものです。</p> <p>【反映困難】</p>

#### 4 意見募集結果等の公表方法

策定された「青森県立高等学校教育改革第 2 次実施計画」は、県のホームページ (<http://www.pref.aomori.jp/>) に掲載するほか、行政資料センター、県合同庁舎の地域住民情報コーナー、県立学校課で閲覧できます。

##### 【連絡先】

青森県教育庁 県立学校課  
管理・改革グループ

〒030-8540 青森市新町二丁目3の1

電話 直 通 017-734-9881

(FAX) 017-734-8270

代表(県庁) 017-722-1111

(内線 5174・5176・5180～2)

メールアドレス：E-KKAIKAKU1@ags.pref.aomori.jp